

東京 2020 パラリンピックの事前キャンプ実施に係る アイルランドパラリンピック委員会とのレガシー協 定書調印式

(令和 2 年 8 月 24 日)

東京オリンピック・パラリンピック大会延期を受けて、本市とアイルランドパラリンピック委員会は、大会延期に伴い再度協定書を締結することとなったことから、東京 2020 大会開会 1 年前の令和 2 年 8 月 24 日、さらに交流を深め、それが後々に繋がるレガシーとなるようにお互いが確認しあい、この協定書への調印を新たなスタートとするために、ジョン・フルム会長やミリアム・マローン CEO はじめ関係者にオンラインでご参加いただき、調印式を執り行いました。

小泉市長からは「これがきっかけとなり、お互いのさらなるレガシーの構築ができることを期待している。新型コロナウイルス感染症により先が見通せない中ではあるが、成田市民やアイルランドの皆様が少しでも希望が持て、前向きになれるよう引き続き積極的に取り組んでいきたい。」とあいさつし、ミリアム CEO からは、「コロナで大会が延期となり、不安定な時期に成田市は変わらず対応してくれてとても心強かった。2021 年にアイルランド代表とホストタウンである成田市の方々との間で行われる文化交流によって、両国間の長きにわたる友情の絆が生まれることを願っている。」との話がありました。

オンラインによる調印式でしたが、和やかな雰囲気が進み、無事調印を終え、笑顔で記念撮影を行いました。

調印の後には、アイルランドパラリンピック委員会から成田市にあてたメッセージビデオを上映し、その後、駐日アイルランド大使館のポール・カヴァナ大使からのメッセージも披露しました。

また、これまでの 3 年間の交流をコロナ禍においても積み重ねていくことを目的に、成田市と PI の共同運営による交流 Facebook が開始されたことを紹介しました。

引き続き、オリパラへの機運醸成や共生社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。





